

# 天草キリシタン史

- 1543 天文12 ・種子島に鉄砲が伝来する。
- 1549 天文18 ・フランシスコ・ザビエル、コスメ・デ・トルレスら鹿児島に上陸する。
- 1552 天文21 ・フランシスコ・ザビエル、広東省上川島で病没。
- 1565 永禄8 ・ルイス・デ・アルメイダ、志岐隣泉の乞いにより、志岐へ来島。  
(天草へ初めてキリスト教が伝わる)
- 1568 永禄11 ・志岐隣泉受洗、洗礼名ジョアン。
- 1568 永禄11 ・トルレス、志岐に布教。
- 1569 永禄12 ・志岐で第一次宗教会議が開かれる。
- 1569 永禄12 ・アルメイダ、天草河内浦に布教する。
- 1570 元亀1 ・天草氏内紛。(布教、入信に仏教徒反発)
- 1570 元亀1 ・カブラル神父、志岐、河内浦で布教。
- 1570 元亀1 ・志岐で第二次宗教会議が開かれる。
- 1570 元亀1 ・トルレス神父志岐で死去。
- 1570 元亀1 ・天草鎮尚受洗、洗礼名ミゲル。
- 1570 元亀1 ・天草久種受洗、洗礼名ジョアン。

1571 元龜2

- ・志岐隣泉、棄教する。
- ・カブラル、河内浦へ赴く。

1573 天正1

- ・天草沖ナオの難破、教会に打撃を与える。

1577 天正54

- ・天草種元受洗（ドン・アンドレ）

1582 天正10

- ・ヴァリニャーノ神父、遣欧少年使節団を伴って長崎港を出航。
- ・本能寺の変。

- ・天草鎮尚死去。

1583 天正11

- ・アルメイダ神父、天草河内浦において病没。

1584 天正12

- ・天草久種、鹿児島で幽閉される。

1587 天正15

- ・天草五人衆、島津氏の軍に入り戦う。
- ・島津氏撤退し、天草衆、一万田城に孤立。キリシタン部将の志賀親次に救われる。

- ・大矢野種基受洗、洗礼名ジャゴベ。

- ・天草五人衆、秀吉と面会、領地安泰を約される。

- ・秀吉、伴天連追放令を出す。

1588 天正16

- ・秀吉、肥後を二分し、加藤清正と小西行長に与える。

- ・生月島山田のコレジヨ、長崎↓千々石↓有家に、ノビシアードは長崎↓有家↓天草に移転。

- ・遣欧使節、マカオに到着。

1589 天正17

- ・栖本鎮通、フロイスにより受洗。一族、領民もキリスト教に帰依。
- ・小西行長、五人衆に普請役を命ずるも拒否。

1590 天正18

- ・小西・加藤の連合軍、天草島の志岐氏、天草氏を攻める（天正の天草合戦）。
- ・志岐城、本渡城陥落。 木山弾正討たれる。
- ・天草は、小西氏の支配下に入る。
- ・秀吉、全国平定

1591 天正19

- ・7月21日天正遣欧少年使節がヴァリニャーノ神父とともに長崎に帰着。
- ・金属活字、印刷機を持ち帰る。
- ・志岐にキリシタン代官日比屋平右衛門着任。
- ・上津浦種直受洗、洗礼名ホクロン。
- ・志岐諸経受洗。
- ・加津佐のコレジヨ、大村のノビシアードを天草河内浦に移転。
- ・同時に印刷機も移転、出版を始める。

1592 文禄1

- ・志岐に画学舎が開設される。
- ・遣欧使節一同、イエズス会に入会。
- ・文禄の役。（第一次朝鮮侵攻） 天草諸豪も小西行長に従い、朝鮮へ渡る。
- ・梅北国兼の乱起きる。 栖本氏、上津浦氏、大矢野氏は宇土へ移住させられる。
- ・天草コレジオで、『平家物語』が刊行される。

1593 文禄2

- ・コレジオで『イソホ物語』刊行。

1595 文禄4

- ・河内浦のコレジヨを一時、大江久玉に移転。
- ・コレジオで『羅葡日辞典』刊行。

1596 慶長1

- ・寺沢広高（唐津）受洗、洗礼名アゴステイニヨ。
- ・イスパニア船サン・フェリペ号、土佐に漂着。

1597 慶長2

- ・慶長の役。（第二次朝鮮侵攻）

- ・天草のコレジヨとノビシアードを、印刷機とともに長崎に移転。

- ・26聖人、長崎で殉教する。

1598 慶長3

- ・秀吉死去。

1600 慶長5

- ・関ヶ原合戦。

- ・小西行長処刑される。

- ・天草は加藤清正領となる。

1603 慶長8

- ・江戸幕府開府。

- ・肥前唐津城主寺澤広高、清正に替わり、天草を加増され、兼帯支配を始める。富岡に新城を築く。

※ 慶長9年（1604）から寛永17年（1640）までは別紙

1641 寛永18

- ・天草は天領となり、鈴木重成が初代代官として着任。

1642 寛永19

- ・幕府、再びキリスト教禁止令を出し、諸大名に各領内における邪教徒の取り締まらせる。

- ・鈴木重成、兄正三の協力を得て、各地に数年かけて寺社建立を行う。

- ・初めて絵踏み行われる？。

1647 正保4

- ・重成、志岐郊外（現在は富岡）に首塚を建碑し、懇ろに原城戦没者の供養をする。碑文は中華珪法。

1648	慶安1	・幕府、切支丹宗門の禁令を発する。
1652	承応1	・幕府、懸賞を出して耶蘇教徒の探索を行う。
1653	承応2	・鈴木重成病死。
1654	承応3	・天草に初めて切支丹宗門禁制の高札が立つ。
1655	承応4	・二代代官として、鈴木重辰着任。重辰は、正三の子で重成の養子。
1657	明暦3	・肥前大村領で耶蘇教徒90人を捕える。
1658	万治1	・長崎奉行、大村耶蘇教徒を処刑する。
1662	寛文2	・幕府、切支丹禁制の厳命を下す。
1664	寛文4	・幕府、重ねて耶蘇教の禁令を布く。諸藩に命じ切支丹詮索のため、五人組手形帳をつくり、毎年査 検させる。
1669	寛文9	・肥後藩ではこの年より切支丹改踏み絵始まる。
1681	天和1	・長崎で踏み絵を銅板にし、各地に広まる。
1687	貞享4	・幕府、切支丹厳禁の令を発する。
1720	享保5	・切支丹類族改めの令が布達される。
1750	寛延3	・天草において宗門人別改帳の実施。
1764	明和1	・富岡町の人数。人数1913人のうち、切支丹類族310人内。 ・宗門改め踏絵廻村。
1799	寛政11	この年以降？ 毎年のように宗門改め踏絵廻村が行われる。 ・幕府、切支丹禁制、寺社振興の諭達。

1802 享和2

・邪宗門取締の厳格化・(内容) 死者を葬る前に旦那寺の僧侶が臨席し、亡者に剃刀を当てるのは、同死体に怪しきことがないのを見届けるためであるが、近年はただ名のみになっているので、以後僧侶が確かに改め、不審あればこれを役所に届けるよう戒告。

1805 文化2

・大江、崎津、今富、高浜で5000余人の隠れキリシタン発覚(天草崩れ)。心得違いとして、穩便に済まされる。1803年から探索が始まる。

1813 文化10

・長崎代官への支配替りに付き、10項目の踏絵取扱いの布達がある。

1814 文化11

・宗門改めは今後2月15日を定例日として、東筋より行いう旨告知される。ただし、本年は悪天候のため、21日より始まり、泊まり27日で実施される。宗門改めで雨天の時は、百姓ども野天では難儀故、苦筵で雨よけして行い、そこまでは合笠又は蓑笠着で差し支えないことを回達される。

1816 文化13

・人別改め7ヶ年に付き、早々宗門帳差出を命じられる。

1829 文政12

・宗門改め廻村、例年2月であるが、村ごとに病人多く踏み残り多数の故、10月に実施される。

1864 元治1

・小山秀之進、長崎に大浦天主堂を建てる。

(大浦天主堂:我が国に現存する最古の天主堂・1953年国宝指定)

(小山秀之進:天草御領大

島の銀主・他に高島炭鉱などの開発にも携わる)

1865 慶応1

・長崎の古キリシタン復活。崎津でも復活の兆し。

1867 慶応3

・長崎奉行、浦上のキリシタン68人を捕える(浦上四番崩れ)。

1868 明治1

・浦上のキリシタン、3400人が全国各地に流罪となる。この処分に付き、在京諸大名に意見を求める。

・神仏混淆を禁ず。

・切支丹宗門は堅く制禁たり、若し不審の者あらば、その筋の役所へ申し出るべし、御褒美下さるの太政官布告。

・各国領事、長崎裁判所に書面でキリシタン禁制を解くよう申し出。

・長崎のキリシタン千余人を、諸大名に預ける。

・キリシタン宗門改め方は、追々規則を立てるまでは、旧幕の処置に従い、不審なる者の有り無し取り糺し、届けることとする。

1873 明治6

・切支丹宗禁制の高札撤去。

・長崎、神ノ島の漁師、海路天草下島の大江に上陸、キリスト教を説き、道田嘉吉外長崎にて受洗。

・キリスト禁教令が解かれる。

・浦上キリシタン釈放される。

・崎津、今富で血税騒動。

1874 明治7

・天草大江に仮説教所設置。

1879 明治12

・天草、大江村の信者野端辰二郎（外90余名）キリスト教で葬儀を執行したため罰金の刑を受け、それを不服として大審院長に上告する。

・天草大江に古材による教会堂建設。

1882 明治15

・崎津教会にフェリエ神父着任。

1887 明治20

・フェリエ神父、今富の根引に孤児院開設（はじめは今富）。

・ガルニエ神父、天草、大江崎津教会主任司祭として着任。

1907 明治40

・五足の靴一行、大江のガルニエ神父を訪ねる。また、天草の旅を通じて、南蛮文学の発展に寄与

する。

1934 昭和9

・ハルブ神父、崎津教会建設。

1941 昭和16

・ガルニエ神父死去。 日本在住57年。

1943 昭和18

・ハルブ神父死去。 日本在住56年。

資料… 『天草近代年譜』松田唯雄著 図書刊行会

『九州キリシタン新風土記』浜名志松著 葦書房

他